



佐

藤

雅

晴

尾

行

存在の不在 / 不在の存在  
sato masaharu

absence of presence / presence of absence  
trace

水戸芸術館現代美術ギャラリー Contemporary Art Gallery, Art Tower Mito

2021.11.13 | 土 | - 2022.1.30 | 日 |

水戸芸術館  
ART TOWER MITO



佐藤雅晴は、ビデオカメラやスチルカメラで撮影した日常の風景をパソコン上でペンツールを用い、なぞるようにトレースしてアニメーション化する、「ロトスコープ」と呼ばれる技術によって映像作品を制作してきました。東京藝術大学大学院美術学科絵画専攻修了後、ドイツに渡り、国立デュッセルドルフ・クンストアカデミーに研究生として在籍したのちドイツを拠点に活動、2010年に帰国し茨城県取手市に居を構えます。その直後に上顎癌が発覚、以後、闘病生活を送りながら制作に励んでいましたが、2019年3月、惜しまれつつも45歳で他界しました。彼の作品は、現代美術、映画、アニメ、メディア・アートの表現領域を越え、国内外で高い評価を得てきました。佐藤自らが撮影した身近な人々や身の回りの風景を忠実にトレースすることによって生み出される佐藤の作品には、現実と非現実が交錯する独自の世界観が描かれています。

生前、佐藤はトレースという行為について、描く対象を「自分の中に取り込む」ことだと語っていました。それは、自身の暮らす土地や目の前の光景への理解を深め、関係を結ぶ行為ととらえることもできます。一方、佐藤の作品を見る私たちは、実写とのわずかな差異から生じる違和感や、現実と非現実を行き来するような知覚のゆらぎをおぼえます。人それぞれに多様な感情や感覚を呼び起こす佐藤の作品は、見ることの奥深さと豊かさを与えてくれるものといえるでしょう。本展では、1999年に渡り初めて制作した映像作品《I touch Dream #1》から、死の直前まで描き続けた「死神先生」シリーズまで、映像作品26点、平面作品36点の計62点を通じ、佐藤の画業を振り返ります。

**佐藤雅晴 SATO Masaharu**

1973年大分県臼杵市生まれ。1999年東京藝術大学大学院修士課程修了後に渡独し、国立デュッセルドルフ・クンストアカデミーに在籍する。ドイツに10年間滞在したのち、2010年日本に帰国。以後、茨城県取手市を拠点に活動。2019年3月9日、同地で逝去。主な個展に「バイバイカモン」(imura art gallery、京都、2010)、「ハロドキュメント10 佐藤雅晴—東京尾行」(原美術館、東京、2016)、「TOKYO TRACE 2」(Firstdraft Gallery、シドニー、2017)、「死神先生」(KEN NAKAHASHI、東京、2019)。主なグループ展に「THE ドラえもん展 TOKYO 2017」(森アートセンターギャラリーほか、2017)、「霞はじめてたなびく」(トーキョーアーツアンドスペース、東京、2019)、「六本木クロッシング2019展：つないでみる」(森美術館、東京)、「DOMANI・明日展2020 傷ついた風景の向こうに」(国立新美術館、東京、2020)、「ヨコハマトリエンナーレ2020」(横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館)、「距離をめぐる11の物語：日本の現代美術」(オンライン展覧会、2021)、「温情の地：震災から10年の東北」(コンポジット、メルボルン、2021)など。

図版：表面。タテマキ Datemaki, 2013

1. I touch Dream #1 I touch Dream #1, 1999
2. バインドドライブ BIND DRIVE, 2010-2011
3. Hands Hands, 2017
4. エレジーシリーズ“ヒーロー” Elegy series “Hero”, 2011
5. Calling (日本編) Calling (Japanese version), 2014
6. Calling (ドイツ編) Calling (German version), 2009-2010
7. 東京尾行 Tokyo Trace, 2015-2016
8. バイバイカモン Bye bye come on, 2010

**新型コロナウイルス感染症に関するお客様へのお願い**

新型コロナウイルス感染症の再拡大など、状況の悪化により内容の変更や延期または中止を余儀なくされる場合があります。混雑が予想される日は予約制を導入する可能性があります。また、場内混雑時には入場制限を行う場合があります。最新情報は当館ウェブサイトやSNSにてご確認ください。体調がすぐれないお客様はご来場をお控えください。また、会場内では次の新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします：入場時の検温/マスク着用/手洗いと手指消毒/対人距離の確保/会話を控える。なお、クロークは当面の間、中止しています。

**【関連プログラム】**

**蓮沼昌宏ワークショップ**  
「つくろう! クルクルアニメーション」and DOMANI  
19世紀後半に考案されたキノアラというフリップ・ブックの原理で絵が動く装置を用いてアニメーションを制作します。  
講師：蓮沼昌宏(美術家/記録写真家)  
主催：文化庁、公益財団法人水戸市芸術振興財団  
文化庁新進芸術家海外研修制度と連動するDOMANI・明日展とのコラボレーション企画です。

**青山悟ワークショップ**  
「世界にひとつだけの時計をつくろう!」  
段ボールやビーズ、マスキングテープなど様々な材料を使って、世界に1つしかないオリジナルの時計をつくります。  
講師：青山悟(現代美術家)

**すごろく鑑賞ガイド**  
市民ボランティアが制作する、本展をすごろくに見立てた鑑賞ガイドを無料配布します。  
編集長：林剛人丸(美術作家)

※会場・日程等詳細につきましては後日、当館ウェブサイトでご発表します。

**【ごいっしょに】**

「上田薫とリアルな絵画」10月26日(火)ー12月12日(日)  
茨城県近代美術館 Tel.029-243-5111

**開場時間** 10:00-18:00(入場は17:30まで)  
**休館日** 月曜日、年末年始(12月27日(月)~1月3日(月))  
ただし1月10日(月・祝)は開館、1月11日(火)休館  
**入場料** 一般900円、団体(20名以上)700円  
高校生以下/70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料  
※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要  
※1年間有効フリーパス⇒「年間パス」2,000円  
◎学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」⇒学生証をお持ちの方と65~69歳の方は、毎月第一金曜日(12月3日、1月7日)100円

**主催** 公益財団法人水戸市芸術振興財団  
**助成** 芸術文化振興基金  
**協賛** ソニーマーケティング株式会社  
**協力** 公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、株式会社ヤマハミュージックジャパン、株式会社川又楽器店、imura art gallery、KEN NAKAHASHI、Estate of Masaharu Sato、サントリーホールディングス株式会社  
**企画** 井関悠(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

**交通のご案内**  
**JR** 東京駅(品川、上野もあり)から常磐線特急で約72~84分、水戸駅下車。北口バスターミナル4~7番のりばから「泉町一丁目」下車、徒歩2分。  
**高速バス** 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」(赤塚又は茨大ルート)で約100分「泉町一丁目」下車。徒歩2分。  
**お車** 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場をご利用ください。駐車場入口は芸術館北側東端です。料金:30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円/営業時間:7:00-23:00

**お問い合わせ** 水戸芸術館現代美術センター  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
Tel. 029-227-8120  
<https://www.arttowermito.or.jp/>

